

○ 本校の概要

閑静な落ち着いた住宅街に位置し、教育環境には恵まれている。保護者の教育に対する意識も高く、関心や期待も高い。また、学校の教育活動に協力的で、様々な場面で理解と協力を得られている。生徒も素直な生徒が多く学習意欲も高い。音楽、スポーツ、語学などで優れた才能を持つ生徒もおり、校内の活動で能力を発揮している。基本的な生活習慣や身だしなみ、規範意識などが身につけている生徒が多い。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価人数	コメント
ブラン1 未来社会を創造的に生きる子供を育てる	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にやがて対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「学校では、いじめを防止し一人一人の人間を大切にしている。」の問いに対する肯定的評価の割合	4: 90%以上	「学校では、いじめを防止し一人一人の人間を大切にしている。」の問いに対する肯定的評価の割合は昨年度から7.5%上昇して92.7%、「職場体験、進路学習など将来のことを指導してくれる。」に対しては、94.7%であった。 新型コロナウイルス感染症の影響は未だに続いており、今後、更なる拡大も心配されている。生徒全員にICT機器の貸し出しが始まった。欠席連絡等、保護者との情報交換をしたりすることも軌道に乗った。今後も合理的な方法を活用していくが、一方で本校では、直接、顔を合わせたコミュニケーションを大切にしている。特に生活指導や進路指導の場面では、気持ちの通い合う対応を模索していく。	A 9	・先生方が生徒たちを注意深く見守り、丁寧に対応してくださった結果であると思う。 ・気持ちが通い合う対応を目指してくださる先生方の姿勢はコロナや思春期による不安、閉塞感を抱えている生徒たちには大きな安心感となっていると思う。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3: 80%以上	・コロナの流行は未経験なことでは指導による苦労されたと思います。でも、図らずもIT社会が進展する一歩になっているため、更に対応の方法を研究され、今後に向けてほしいと思います。 ・いじめについてはほとんど聞きません。ICT機器によるオンライン授業については教師それぞれが趣向を凝らして対応いただいていると感じています。 ・学習成果発表会等で生徒の様子を拝見しましたが、生徒同士の思いやりを感じ、皆様の指導がうかがえました。			
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	4: 80%以上				
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上				
体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満						
ブラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「授業はわかりやすい。」 「まじめに授業に取り組んでいる。」 項目の肯定的回答の割合	4: 90%以上	「授業はわかりやすい。」の問いに対する肯定的評価の割合が94.8%、「まじめに授業に取り組んでいる。」に対しては、94.1%であった。 感染症による臨時休校や感染による登校停止等はなかったものの、各学級とも毎授業の配信を行っている。学力調査等では全体としては高い平均点をとることができているが、ゆくゆくは習熟に不安のある生徒が活用できるようなアーカイブ等も検討する必要があるのではないかと。	A 8	・本校の生徒は学習環境が整っていたり、学力が高かったりすることが多いが、習熟に不安のある生徒に対する方策を考えてくださることは、今後、入学してくる生徒にとって安心なことである。 ・授業配信で平等な学びを受けられることはたいへんありがたい。 ・「配信でない授業」を必ず設けて、子どもの生の表情を見てほしい。 ・なぜ、学校に行くのか、ということ子どもたちにも理解させてほしいです。 ・道徳授業地区公開講座などでは、答えが一つではない課題に対して生徒たちがしっかりと自分の意見を発表しており普段から積極的に取り組んでいると感じました。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	2	3: 80%以上				
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上				
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満				
ブラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「規律を守り、真面目に学校生活を送っている。」 「先生は、悩みや相談に対して丁寧に対応している。」 項目の肯定的回答の割合	4: 90%以上	「規律を守り、真面目に学校生活を送っている。」の問いに対する肯定的評価の割合が昨年度から3.5%上昇して91.7%、「先生は、悩みや相談に対して丁寧に聞いてくれる。」に対しては、89.4%であった。 本校では昨年度までの道徳の研究に加えて、今年度から教育相談等の研究を開始した。校内では教育相談部を立ち上げ、情報の共有や個に応じた指導について意見交換を進めている。子どもたちの「困り感」の軽減は豊かな心の育成につながるものと考えている。また、いじめや不登校、問題行動等の早期発見等にもつなげていきたい。	A 8	・先生方がとてもよく話を聞いて下さることは本校の良さとして地域に認知されていることだと思います。それに加え、「教育相談部」を立ち上げ情報共有や個に応じた指導をして下さることは指導の特性、強みをよりよいものへと昇華し、生徒の心の育成に必ずつながるものと思います。 ・外部の者にとっては評価がとても難しいと思います。 ・先生方がしっかりと向き合っていると思います。 ・面談など、一人一人をよく見ていただいていると感じています。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 80%以上				
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上				
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	1: 70%未満				
ブラン4 増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「朝食をとり、起床や就寝時間を守るなど規則正しい生活を送っている。」の問いに対する肯定的評価の割合が昨年度から9%上昇し、89.4%、「学校は行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している。」の問いに対しては昨年度から7.8%上昇し、93.5%であった。 昨年度と比較して、体育的行事や部活動が実施できるようになってきた。従来通り十分な感染対策を行うと同時に、体力の向上に努めていきたい。また、抵抗力を高め、感染しにくい体を作るために、引き続き規則正しい生活についての生徒の意識の向上にも努めていく。	4: 90%以上	「朝食をとり、起床や就寝時間を守るなど規則正しい生活を送っている。」の問いに対する肯定的評価の割合が昨年度から9%上昇し、89.4%、「学校は行事や委員会活動、部活動などを通して、生徒の個性や能力を伸ばすよう指導している。」の問いに対しては昨年度から7.8%上昇し、93.5%であった。 昨年度と比較して、体育的行事や部活動が実施できるようになってきた。従来通り十分な感染対策を行うと同時に、体力の向上に努めていきたい。また、抵抗力を高め、感染しにくい体を作るために、引き続き規則正しい生活についての生徒の意識の向上にも努めていく。	A 9	・今年度は学校に向かう機会があまりとれなかったが、「田調中だより」やホームページで校内の様子が多かった。 ・コロナで活動が制限される中、生徒の個性や能力を伸ばす項目が7.8パーセントの上昇があったことは先生方の尽力の賜物だと思う。 ・コロナ禍はいつまで続くかわかりませんが、「抵抗力を高め、感染しにくい体を作る」とはとても大切で、引き続き、生徒の意識の向上のために働きかけて下さればありがたいです。 ・自分の個性が見つからない子、特技が見つからない子たちをどう伸ばすのか、とても難しいと思います。中学時代はそれを見つけるための準備期間であると教えてあげてください。 ・試合や大会の中止が続くことから、子どもたちが目標を失ってしまっているのではと心配しています。 ・コロナ禍で普通の生活が難しい中、肯定的評価の割合が上がっているため、指導が適切に浸透していると思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	3: 80%以上				
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	2: 70%以上				
		部活動への参加を奨励し、継続的に体を動かす態度を養う。	4:部活動参加率が90%以上であった。 3:部活動参加率が80%以上であった。 2:部活動参加率が70%以上であった。 1:部活動参加率が70%未満であった。	2	1: 70%未満				
ブラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	意識調査 「生徒が興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」の問いに対する肯定的評価の割合は、89.3%であった。 昨年度、中止となることも多かった各種の研修会がICT機器の普及で開催されるようになり、教員の関心が高まっている。また、感染症の状況にもよるが、今後、外部の会場で開催される研修等への積極的な参加を進め、教員の指導力の向上を目指したい。	4: 90%以上	「生徒が興味・関心をもったり、やる気が出るような授業の工夫をしている。」の問いに対する肯定的評価の割合は、89.3%であった。 昨年度、中止となることも多かった各種の研修会がICT機器の普及で開催されるようになり、教員の関心が高まっている。また、感染症の状況にもよるが、今後、外部の会場で開催される研修等への積極的な参加を進め、教員の指導力の向上を目指したい。	A 8	・やる気の出る方法を、私たち大人も教えていきたいと思っています。 ・オンライン等で研修会が開催されるようになったのはとても喜ばしいことです。感染状況により、まず先生方が学んで下さること89.3%という高い数字に結びついたものと思います。 ・急速にICT化が進み、先生方の負担も大きいと思われるが、今後更なる工夫をお願いします。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	3: 70%以上				
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	2: 60%以上				
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1: 60%未満				
ブラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り直します。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作り直します。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	意識調査 「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝えている。」の問いに対する肯定的評価の割合は、90.6%であった。 昨年度と同様、例年PTAや地域の方々から協力いただいている田調中フェスタや防災訓練等を実施することができなかった。今後の地域との連携を考えたときに、これまでのように行事を中心とした交流や直接、ご支援をいただくことは難しい場合もあり得る。また、学校からの発信を充実させるなど、改善を図りたいところもある。地域の役員やPTAの役員会との連携を十分に図り、計画を進めていきたい。	4: 90%以上	「保護者や学年懇談会、学校・学年だよりなどを通して、教育方針や学校の情報をわかりやすく伝えている。」の問いに対する肯定的評価の割合は、90.6%であった。 昨年度と同様、例年PTAや地域の方々から協力いただいている田調中フェスタや防災訓練等を実施することができなかった。今後の地域との連携を考えたときに、これまでのように行事を中心とした交流や直接、ご支援をいただくことは難しい場合もあり得る。また、学校からの発信を充実させるなど、改善を図りたいところもある。地域の役員やPTAの役員会との連携を十分に図り、計画を進めていきたい。	A 9	・コロナ禍であっても学校と地域が関わる方法を模索していきたい。 ・学校だよりでの情報提供はたいへん参考になります。地域の自治体として、今後もぜひ、学校と交流を続けていただけたらと思います。よろしくお祈りします。 ・長男が在籍していたころから毎週、発行して下さっている学校だよりは、とても細かく様子を伝えて下さっていて保護者の心の支えになっていました。99.3%という高い評価からも現在の保護者の方々の満足感が伝わってきます。また、学校行事を行うことに配慮されたことなども感謝いたします。95.5%という数字には生徒・保護者の学校への感謝が表れていると思います。行事を中心とした交流はまだ難しいかもしれませんが、例えば取り組みをプリントにして小学校に配布するなど、田調中の良さや地域の方々から知っていただくことができました。田調中の良さを地域の方々から知っていただくことができました。ありがとうございます。 ・学年だよりは情報が豊富で楽しく読ませてもらっています。学校行事についても感染対策を実施して開催していただき感謝しています。 ・計画している行事ができない中、学校だよりを定期的にいただけるので学校の様子がよく分かります。今後ともよろしくお祈りします。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の発案等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3: 80%以上				
		学校支援地域本部と連携するなど、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	2: 70%以上				
		研究を進めてきた道徳授業を更に充実させるために、道徳委員会を実施し授業の進行管理や教材の開発等を行う。	4:毎週実施した。 3:2週に1回実施した。 2:1月に1回実施した。 1:学期に1回実施した。	4	1: 60%未満				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめることを行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す